

# 令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター 芸術資源活用プロジェクト 実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトの タイトル	東京藝術大学と中国人留学生～李叔同から現代まで～展	
実施責任者 (申請代表者)	氏名	所属／学年／役職 (所属がない方は未記入)
	牛島 大悟	芸術情報センター
実施期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日	
<b>実施内容</b> ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 (500～600 字)	<p>まず大学本部にて、学校基本調査より平成 16 年度以降の中国人留学生の学生数を電子データで公開して頂いた(令和 5 年 9 月)。その後、平成 16 年以前の紙資料での保存状況を確認するため、本部地下の資料室を公開して頂いた(令和 5 年 9 月 29 日)。</p> <p>続いて、旧東京美術学校最初期の中国人留学生で、中国本国で弘一大師として現在も絶大な人気を誇る李叔同(李岸)の卒業制作自画像(1911 年卒)を大学美術館の協力をもとに、調査閲覧を行なった。令和 6 年 1 月 10 日(水)李岸自画像を資料調査室に作品を設置した状態で、中国人留学生たちと取り囲み、閲覧および記録撮影を行なった。閲覧にあたり、大学美術館熊澤弘准教授に立ち会って頂き解説して頂いた。</p> <p>令和 6 年 3 月には未来創造継承センター所属の近現代美術史・大学史研究センター(GACMA)の中国人留学生に関わる記録文書、大学史関連資料を公開して頂き、閲覧および記録撮影を行う。</p> <p>記録撮影にあたっては、プロのカメラマンで本学を卒業した元中国人留学生に依頼し、芸術情報センターの撮影機材にて高精細な映像 4K 高解像度で行なった。</p> <p>また大学資料閲覧にあたって、中国人留学生の現役生、卒業生によるプロジェクトチームを集い(総計 91 名)、その中からコアメンバー(7 名)による勉強会を不定期に行なった。実際の大学資料閲覧もコアメンバーが参加して行なっている。</p>	
<b>実績報告</b> ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 (500～600 字) ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 (必須)	<p>本プロジェクトは、旧東京美術学校から続く本学への中国人留学生が日本と中国、両国の文化交流を促進してきたかを明らかにする目的があり、令和 6 年 8 月に大学美術館陳列館にて行う展覧会「東京藝術大学と中国人留学生～李叔同から現代まで～展」は、そのプロジェクトの礎となる企画である。今回の芸術資源活用プロジェクトで行なった資料調査は、展覧会のメインとなるドキュメンタリー映像として編集し発表される。発表にあたっては、出来るだけ高解像度での撮影と放映を行う。ドキュメンタリー映像の内容は、大学美術館資料調査室での李叔同(李岸)の卒業制作自画像撮影と近現代美術史・大学史研究センター(GACMA)の中国人留学生に関わる記録文書、大学史関連資料の閲覧撮影が中心となる。</p> <p>芸術資源活用プロジェクトとして採用されたことで、大学内各部署での連携も円滑に進み、資料閲覧と撮影を行うことが出来た。撮影された映像は、展覧会の展示映像としての目的のみでなく、東京藝術大学が持つ資源を後世に伝えるための貴重な資料としても活用を期待している。</p>	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)

